

週日の説教

金 大烈 神父 2010年8月3日(火)

《どのくらいイエス様に任せているか -恐れを感じていませんか-》

皆様、飛行機がどのくらいの高さまで上昇するかご存知ですか。8,000メートルから10,000メートルを超えるくらいの高さまで上昇して飛行します。スピードは、平均、時速800キロメートルから1,200キロメートルです。では、そのような高さまで上昇した時、飛行機の外の気温はどのくらいになるのでしょうか。マイナス50 からマイナス60 くらいになります。しかし人々は、何も気付かずに、途中で睡眠をとったりしながら飛行機に乗りますね。もし飛行機がなければ、人間は高度8,000メートル以上、外気温マイナス50~60 になるようなところで、時速1,000キロメートル以上のスピードで動くことはできません。しかし飛行機の中は、人間が生きられるように適度な酸素の濃度、適切な温度など全ての条件が調節されています。だから、私達は安心して飛行機に乗ることができます。何度も飛行機に乗っていても外気温がマイナス50~60 になっていることにさえ、全然気付かない人もいます。

今日の福音(マタイ 14・22 36)に入ります。この箇所は、ただ読むのではなく、いろいろ想像してみてください。弟子たちは、湖で先生(イエス様)と一緒に舟に乗りました。そしてあちこち行った後、先生(イエス様)は「山で祈るから降りしてほしい。その間あなたがたは、舟の中で待っているように。」と言って、1人で山へ登られます。そして、一晩経っても全然帰って来ません。弟子たちは、どうしたのかと緊張します。更に、暗闇で前は全然見えなくなります。そして「夜が明けるころ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれた。」と書かれていますね。「夜が明けるころ」というのは、まだ暗がりが残っている頃ですよ。そして、その前の箇所に「舟は・・・逆風のために波に悩まされていた。」と書かれていますね。ということは、舟で待っていた弟子達の状況は最悪だった、ということです。本当に不安で、恐怖さえ感じる状況だったと思います。その時、湖の上を姿のはっきり見えない何かが歩いて近づいて来ます。「幽霊だ」と思うのは当たり前です。どのくらい怖かったか想像してみてください。もし皆様がその舟に乗っていたらどうでしょう。たぶん息が止まるくらい、その場でおしっこをもらしてしまうくらい、怖かったでしょう。

福音をよく理解するためには、このように想像する時間が必要です。

しかしそれは、弟子達が待っていた先生(イエス様)でした。だからペトロは、「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」と言いました。するとすぐに「来なさい。」という返事があります。ペトロはためらう余裕もなかったでしょう。「水の上を歩かせてください。」という言葉が終わった途端に、「来なさい。」と言われたのです。そしてペトロは何歩か歩きます。しかし、強い風やいろいろなことに気付いて怖くなり、沈みかけます。するとイエス

様が手を伸ばして捕まえてくださいます。この時イエス様は、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。」とおっしゃいます。「このように信仰の薄い者たちを残して、どうして私がこの世を去れるのだろうか。」という思いだったのでしょうか。

結局、高度 8,000 メートル、マイナス 50~60 の気温の中を、時速 800 キロメートルくらいのスピードで飛ぶ飛行機の機内と、この世の中を生きる私達の人生とは、同じようなものではないかと思えます。いつも不安に陥ったり、怖がる対象があったり、どうすればよいか全然答えが出ない、全然前が見えないことがあります。その時、イエス様は私達に「すぐ、来なさい。」とおっしゃっているのかもしれませんが。「休ませてあげるからすぐ来なさい。」「守ってあげるからすぐ来なさい。」という呼びかけを聞いて、私達はどのくらいの信頼心を持って、全てをイエス様に任せているのでしょうか。今日の福音は、それを振り返ってみる箇所だと思います。

イエス様の呼びかけを疑う一番大きい理由は何でしょうか。イエス様を信じようとしても、「本当に私を守ってくださるのか」「本当に私を愛していらっしゃるのか」と疑ってしまう原因は何でしょうか。更にその疑いを超えて「本当に神様はいるのか」とまで疑う一番大きい原因は何だと思いますか。原因はいろいろあると思うのですが、その一つは『恐れ』ではないでしょうか。

今日の福音は、ただ「怖さを感じて水に沈みかけた」というだけの箇所ではないと思えます。私達は本当に全てのことを神様に任せ、「あなたが私を守ってくださるから、いろいろ難しさはあってもあなたを信じて、あなたがおっしゃったとおりに進みます。」という心を持たなければなりません。しかし、恐れる心がそれを妨げます。「これを失敗したら私は死んでしまうかもしれない。」というところから疑いが生じるのではないのでしょうか。

皆様、「どのくらいイエス様に任せているのか」によって、私達の信仰の深みが測れると思えます。

ありがとうございました。